
異世界の美少女ッ！

初音カノン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界の美少女ツ！

【Nコード】

N7997Y

【作者名】

初音カノン

【あらすじ】

転生モノでございます。超可愛い美少女ちゃんが、竜使いを目指したり魔法ではちゃめちゃったり、あんな事されたり（はないか）……。

異世界のお話ですが、ファンタジーというより魔法というよりどういう訳かコメディが強いお話となっております。

気まぐれ作者ながら更新は不定期です。でも必ず更新します。顔をのぞかせる程度でもイイのでは非見て下さい。

はじまり

『……………ーえっ……………？』

気が付くと、俺の目の前が汚いゴミ屋敷（俺の部屋）から楽園に変わった。意識が遠のいた記憶も無いし、瞬きをしていたら急に視界が変わったような錯覚。

これこそワープ……トリップか？しかしお約束では、竜巻に巻き込まれた『うわぁぁぁ、吸い込まれるッ』が妥当で有ろう。

こんなにも簡単にトリップをした俺・芝崎康。残念ながら『……ここは何処だ？』というトリップ特有のお約束セリフを、言わずにワープした男。非常に虚しい。あつ、でも竜巻とか関係無しに『ここは何処？』の名ゼリフは言うか、そうか……じゃあいいや。

「ここは何処？」

一応言いますよ……それは。例え夢でも、さっきのゴミ屋敷の方が夢でも関係無い。お約束に反した行動をするヤツなんて、死ねばいいのに。

（……………死語は慎みましよう。）

ソレにしても、楽園と言えば楽園だし、地獄といえど地獄になりそうに微妙な所だ。辺りも静かで物音すらしていない。

「ここは…。」

そう言っつてその場から立つてみる。……そこで俺動揺。ここはどうやら天空みたいだ。町が、雲が、空が（空は上にもあるでしょ？）下に見える。下は雲のせいで見えない。

急に物音がしたから振り向くと、小さめな耳の長い少女が現れた。^{アース}多分地球で言う…エルフ…だったけ？簡単に言つとそんな感じ。しっぱ等はもう触れないでおこう。

『……マツdクe i a g e # & % ~ ~ ~ 』

何語……！？無理です、無理です…。途中で『マツク』って言った様に聞こえたけど、ここでファストフード登場な訳無いしツ。マツクマツク、マクドナルド……

そうして少女は気付いたように、持っていた何かを回した。まるで時計の様な、ソレにしては異常に大きいような、そんな感じた。回したあと、俺の顔を真っ直ぐ見る。

『…失礼しました。間違えていた様ね。』

……マック。…って違う違う。一応今のなら分かるぞ！

『あの……これでも分かりませんか？しまった。また……間違えたかなッ？このダイアル回しにくいのよね…』

「あ…分かる、ケド。」

『あら、そ…そうですね！良かった。さっきはごめんなさい。私のミスで驚かせてしまったようですね。』

少女は姿形は幼いものの、喋り方的に『出来る女』って感じた。俺のお袋そっくりな口調だ。

「今の回したのって…」

『あつ、これですか？これは、音替えマシン10000号ですっ』

割とまんまだな。せめて通訳機とかさ………もういいや。俺は面倒くさがりなんだ。いるだろ？部屋がゴミ屋敷化していくヤツ。服とか出しっぱなしでしまわないヤツ。それが俺だ。

それとあえてツツこまなかつたが、1000号ということはあと999号まで有るんだろうな。

「俺はなんで此所に来たんだ？」

『私が呼びよせたのですよ。貴方のお力を借りる為に。』

「俺の力？」

俺は今まで、平凡かつ「普通」と呼ばれる人生を歩んできた。仲の良い女子も不細工でも可愛くも無い平凡だったしな。…男友達は割とモテてたけど。
だから、こんな風に力を必要とされていると言われてまんざらでも無かったのだ。

『説明は…出来ません。何も言うなと言われていたもので。貴方のお力が必要、それだけは知っておいて下さい。』

「ああ…。」

『それよりも、ここから飛び降りれます？』

「はい…はい？」

『飛び降りれますか？何なら後ろから押してあげますよ？』

下を見下ろすと、洒落しゃれに無んない高さだ。高い山も下にちっぽけに見える。だって考えても見ろよ…、観覧車で落ちるより遙かに高いんだぜ？

「無理っス。」

『しょうがないわね。目をつぶりなさい、催眠をかけてあげる』

「とかいいながら後ろから突き落とすなよ！？無理だからな？」

そう言いながら目を瞑った。

……俺の異世界の始まりはこのロリ少女との出会いだった
――。

その1（前書き）

プロローグより、2日目。

その1

地球^{アース}の皆、元気かッ？俺は元気だ。急に消えてすまないが、俺は少し……いや、一生帰れそうに無い。というより、帰りたいとも思わない。

理由は複雑そうで簡単なんだ。地球^{アース}で色々あつて異世界に飛ばされ、その時には既に七歳の美少女に転生していたんだ。だから今帰つてもどうせ分らないだろう？

しかも東京に行つたら絶対誘拐されそうぐらい可愛いのだ。俺もさっきビビッた。

しかもたいした美少女で…女だけど、幼女だからしょうがないがまな板。『女』っていう部分は有る意味運が良かったかもしれない。

そして、俺がこの世界で興味深いのは「魔法」だ。この世界では、魔法^{マジ}が当たり前みたいだ。

もう一つはなんとッ、美女^{ビューティ}が多い……っていうより、美女しか見たことがない。昨日会った美人に動揺したが、ここに住む種族全体ががそんな顔立ちらしい。…忘れていた、無論男も居るがな。

もつと運の良いことに、この国一番の剣士の子供として転生したようだ。だから、元々が備わっているっぽい。ラッキーだろ？マジ、うん。

親の七光りー。でも普通、魔力とかは血のつながり関係が無いらしい。まー、そんなのどうでもいい。とりあえず俺最強ッ！

って…言いつつ、まだたいした魔法使えないけど。

幼いからな…。一応7歳の幼女だから、体の無茶は出来ない。

今使えるのは、モノを動かしたり魔物を懐かせたり（？）

懐かれる必要があるのかと思うが、コレが無いと魔物を仲間に付ける事が出来ないらしい。

そんなのでも、俺は「最強」っていうのでこの国に有名になりつつある。この国の奴らは魔力が見える…らしい。本来俺にも見えるらしいが見えん。人を見てたら、アイコン的なのが発動して

（3P）

みたいなノリで見えるみたいだ。（下僕談）何ソレ…スゲエな。因みに…Pっていうのは魔力の数え方の事だ。勿論高い方が魔力が多いと言っこと。

おっと、段々話がずれてきたから一応俺の指名を話しておこうか。

俺はどうやらこの異世界に選ばれたらしい。前あった女神（また話すから、今は聞いてくれ）にそう言われた。

この世界で最強の剣士になればいいのだと。そんなのお安いご用だしっ。俺最強だし。……多分…な。

俺の転生先の家族はもの凄く俺に甘い。だから、何が本当かさっぱり分からん。「俺の魔力が最強」っていうのは、本当であって欲しい。

家は一応親父が凄い剣士だったからか、豪邸だ。これもラッキーだな。

親父は凄い剣士だったらしいが、今はどっか行っている。そしてまだ会った事も無い。

お袋は25歳。……は？親父は40歳楽に超えてるらしい。

20で…40…親父が30歳で、お袋15歳…怖ッ。何その設定。
15って中学生だぞ？日本だと。作者も怖いことさせるんじゃない
よッ！どうなの？日本ではそういうの駄目だろ？オイオイ……

姉は13歳……って、上の聞いてからだとか、やばく聞こえるが養子
だから安心しろ。俺は血が繋がっているらしいが。お袋も姉も年が
結構近い事からか、仲が良いのだ。女友達みたいなノリで。うん。

兄は14歳、此方も養子。俺にベタ惚れ……俺は7歳の幼美少女だ
からだよ？変な方向じゃねえよ？オイ。そう言う系で語っている訳
ではないからな？変なファンが付く前に言っておく。

みんな年が近い。……親父以外。（忘れてたから付け足し）

……そんなおかしい一家に転生した。俺の人生…どうなってしまっ
たのか？

その2

「メイド〜〜、ティーくれ。」

姉のマルシェンヌ（13歳）が言った。俺は長いから「マル」と呼んでいる。見た目はとってもスリムだが、顔は超美形。

どうやら俺の転生後の未来形らしい。

「おい、マルシェンヌ。そんな汚い言葉遣いじゃもらい手が薄まるぞ？」

「いいじゃん、別に。もう沢山来てるじゃん。」

姉は美形だから、どうやら結婚候補盛りだくさんって感じだな。注意した兄もそう言われては反論出来ない。

俺的には兄も美形だから、嫁候補多しだと思うのだが。

兄はロビタリアン。面倒だから「ロビ」と呼んでいる。みんながそう呼んでいるからだ。あえて、始めと三つ目を取ったみたいだ。

「アリアは絶対、ああ言う風になるなよ？俺だけの可愛い可愛い姫様でいてくれ！」

「ハイ ロビ兄様」

ロリコン野郎な兄は使えそうだし、一応媚び売っているのだ。有る

意味違う意味で賢いとは、地球でもよく言われたもんだ。^{アース}

「でもー…アリア普通に可愛いし、候補いるよ？ママも納得な人ま
でいるし。」

「うっ…マリア……俺もマリア…」

ソレばかりは知らねえよ、俺がやったわけじゃないし。我慢して
くれよ、兄貴。

「でもさ、マリアの候補様凄いのよ！王子ッ。めっさ格好良かった
わ！」

会ったんだー俺は興味無いし、関係無いけどな。

「どんな人なの？」

「とびきりイケメンで、それでもっておぼっちゃま。とりあえず非
の打ち所の無いって感じ。私の候補者なんて、金持ちが理由で選ん
だらしいから、不の不の不細工だった。」

「へ・へえ〜」

そりゃ不細工よりはイケメンの方が…じゃねえよ。俺中身一応男だ
し、一応じゃなくてホントに。

男がイケメンでもときめかねえよ？

それよりも、さっきから『ぐおおお』とか『がるううう』とか奇妙

過ぎる声が聞こえるのだ。一体コレは？

「兄さま、さつきから聞こえる奇妙は声はなんですか？」

「これはレイチエルだな。」

「レイチエル？」

また覚えにくい名前が追加されるようだ。英語風なのって覚えにくいんだよな、また。

「アリアはまだレイチエルに会った事無かったか？」

「いいえ…、でも小さかったわね。今も小さいのは変ないけど。」

「そうか…。じゃーレイチエルに会いたいか？」

「うん！会いたーい」

興味無いけど、一応乗っておく。転生先が幼女っていうのも考え物だな、こりゃあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7997y/>

異世界の美少女ッ！

2011年11月24日18時52分発行